

---

日本職業・災害医学会会誌 第51巻 第2号  
Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology  
Vol. 51 No. 2 March 2003

---

巻頭言

第51回日本職業・災害医学会学術大会を迎えるにあたって

阿部 薫

横浜労災病院長

平成15年11月19日、20日に横浜みなとみらい地区にあるパシフィコ横浜アネックスホールにおいて第51回日本職業・災害医学会学術大会を横浜労災病院が中心となり開催することになった。

この学会はこれまで大学と労災病院が交互に当番を務めてきた。一昨年は大阪労災の鎌田病院長、昨年は産業医大の重松教授の下で開催され、多くの注目を浴びた。今年、平成15年度も出来るだけ多くの方々に横浜に足を運んでいただき、出席してよかったと思っただけのような学会にしたいと横浜労災病院を挙げて計画づくりに取り組んでいる。皆様に今から注目していただけるように、現状、そしていま考え、計画していることについてお話ししてみたい。

現状としては、すでにホームページをインターネット上に設置しており (<http://www.pmet.or.jp/~jomt2003>)、随時刷新を加えながら皆様にそのときに応じた情報をお伝えしている。加えて、学会に恒例のプログラム委員会はインターネット上でメーリングリスト方式で検討することとし、多数の方々にメーリングリスト上においてプログラム委員になっていただき、いろいろな提言をすでにいただいている。この提言の中から、横浜労災病院・馬杉副院長をプログラム委員長とする委員会において、より適切な演題を現在選定中である。演者をお願いした場合には、どうぞご協力をお願いする次第である。

これだけ激動の時代であり、労働福祉事業団も平成16年度からは独立行政法人となることが決まっている。しかし、具体的にどうなるかはあまり先が見えない状態でもあり、私たちとしては、出来るだけ現状を理解し、自分たちの将来を展望できるような学会にしたいというのが学会の運営の基本方針である。しかし、それにしても分からないこと、決まっていないことが多すぎ、多くの方は正確な情報をお持ちになってはいると思う。私自身にも分からないことが多すぎる。そのため、学会のプログラムなども、可能な限り明らかにされたことに基づいて計画したいと考えているので、どうしても後回しになりがちである。しかし、作成の締め切りまでには、その時点までの可能な限りの情報を集め、学会を出席してよかったと思えるような会にしたいと皆で考えている最中である。ちなみに、第51回学会の基本テーマは、“変わりゆく医療—私たちは何を求め、何を求められているのか—”ということにした。このテーマ通り、皆で話し合い、考え、そして今後の歩みを進めるための会であってほしいと考えている。

2年前から看護部会が発足している。今後、この部会は日本職業・災害医学会時に開かれることになっているが、私はこの方向に大賛成である。労災病院の看護部がより勉強を重ね、また医師、技師など他の医療部門もその部会に参加して、お互いに語り、議論することにより看護、すなわち医療の質がより高くなることを期待している。

学会では基調講演、特別講演、シンポジウム、教育講演、ワークショップなど、いろいろ計画を進めている。学会の基本となる基調講演は、伊藤新理事長をお願いしており、御承諾をいただいている。私としては、可能な限り、労災医療グループのこれからのあるべき姿を示していただきたいと考えている。たとえそれがより厳しい姿であっても、そこに夢を育む将来があるのであれば、会員はその考えをより支持するのではないだろうか。その他の講演、シンポジウムなどにつけても、より現状に合った問題についての話し合いを期待している。

会場はパシフィコ横浜に新築されたアネックスホールという場所で、しばしば学会が開催されているパシフィコ横浜に隣接している。非常に快適な設備であり、当学会を開催するにはふさわしい場所であると考えている。加えて、横浜は最近では首都圏で最も人気の高いところであり、多くのホテルが林立するとともに、赤レンガ倉庫、アウトレットモール、ランドマークタワーなど、最近の日本を代表するようなものがたくさんある。また中華街、馬車道通り、外人墓地など古き良き横浜も十分に保存されており、学会の合間に訪れていただくのも楽しいことではないかと考えている。

ともかく、皆様に横浜での学会に来てよかった、参加して為になったと言われるような学会にすべく、病院の総力を挙げて努力している現状をお伝えし、皆様の横浜へのご来駕をお待ちしていることをお伝えしたくこの一文をしたためた次第である。